

## J-REBT研究執筆要領

- 1 A4 単票・縦版の用紙に、PC ワードプロソフトを用いて横書きで書き、原稿の枚数は要旨・図表・注などすべてを含めて10枚以内とする。
- 2 1 ページの標準の字数は2000字（1行50字×40行）とし、本文の文字の大きさは10ポイント前後、フォントは明朝体とする。用紙の左右マージンは、上が25mm、その他20mmの余白をとる。
- 3 原稿の冒頭に標題、氏名および所属先を付記する。また、これらについて英文も併記する。なお、査読用原稿には氏名および所属先を記入しない（それ以外は投稿原稿と同一とする）。
- 4 本文の前に和文要旨（400字程度）と、キーワード（5つ以内）を記載する。
- 5 文字は常用漢字・現代かなづかいによることを原則とする。また、欧文は活字体を用いること。
- 6 外国語には、できるだけ訳語を付けること。外国の地名・人名は原語を用いること。
- 7 本文中の章、節、項には、それぞれ ・ ・ ・ ...、1・2・3...、(1)・(2)・(3) ...、の番号で表記すること。箇条書きの番号には ・ ・ ・ ...、が望ましい。
- 8 図・表は以下のように記すこと。  
通し番号をつけること。（図1・図2・図3...、表1・表2・表3...）  
図表タイトルは図・表の上に記すこと。  
図表は、原則、印刷用版下として直接使用できるものであること。
- 9 注は、できるだけ本文中に組み入れること。脚注とするときは、(1)、(2)のように注記の一連番号を参照箇所の右肩に書くこと。また、注記そのものは、本文の最後に一連番号を付けてまとめること。
- 10 引用文献の表示方法は、原則として以下の形式による。
  - 1) 本文中では、次のように表示する。  
「...，菅沼(1995) も指摘しているように...」  
「...という調査結果もある（鍛冶，1998；佐藤，1990）」  
「たとえば「...である。」(Dryden 1985，Pp.75-76)」
  - 2) 同一著者の同一年の論文については（菅沼，1995a，1995b）のようにa、b を付ける。
  - 3) 引用文献は、外国の文献を含めて著者名のアルファベット順で、以下の例にしたがって注の後にまとめて記載する。  
引用文献の表記は、心理学研究に準拠する。  
例 学術雑誌 著者名 発行年 タイトル 雑誌名 巻号 頁  
書籍（単著） 編著者名 発行年 タイトル 出版元  
書籍（分担） 分担著者名 発行年 分担章（编者・書籍名）出版元 引用頁
- 11 本誌への掲載料は無料とする。
- 12 著者校正是初校のみとする。校正の際の原稿への加除は認めない。

2009 年10月4日施行